



総合順位 11位

都駅伝を終えて

中村 太紀

今回僕たちは、全国への切符を掴み取ることはできませんでしたが、最高のチームワークで臨むことができました。駅伝を通じて、たくさんを経験し、成長できたと思います。振り返ると、今回の駅伝を迎えるにあたっていろいろなことがありました。

去年の駅伝が終わり、僕たちの代は始まりました。そしてすぐ「全国駅伝出場」という目標はできました。しかし、全員が本気で目指している、そういう雰囲気はなかったと思います。全員全国に行きたいという気持ちはありましたが、どこか中途半端なところがあり、練習でも「熱さ」が足りませんでした。

このままなんとなく駅伝を迎えるのではないかと思いました。

僕たちはこの状態をなんとかするために、たくさんのミーティングや話し合いをしました。練習のときだけでなく、学校帰りにも話したし、交換練習日誌というものもやりました。そうして僕たちは本音でぶつかり合い、コミュニケーションをとっていきました。すぐに変わったわけではありませんが、駅伝が近づくにつれて緊張感と共に、チームはまとまっていきました。駅伝直前には強いチームワークも生まれ、走る人、走らない人関係なく、みんなの気持ちが一つになりました。

当日もいい空気で臨めましたが、結果は11位に終わりました。タスキには、たくさんの人の思いが込められていました。全国へ行けないとわかった時は、申し訳ない気持ちと悔しい気持ちでいっぱいでした。でも、暗い気持ちだけではありませ

ん。最高の仲間で本気になって戦えた、それは本当に良かったです。今回の都駅伝を通じて、「駅伝」という競技の素晴らしさや、仲間、チームメイトの大切さを感じることができました。目標に届くことはできませんでしたが、さすががしさも残っています。

駅伝が終わり、なぜ全国へ行けなかったのか考えました。僕たちはとても良いチームだったと思うし、全国も狙えるチームだったと思います。チームが本当の意味で一つにまとまる、これはとても難しいことで、すごいことです。しかし、全国を目指す上で、これはスタートラインでしかなく、上に行くためにはそこから先へと進まなくてははいけません。僕たちは、長い間一つになれず、ようやくまとまったことで慢心が生まれ、そこから先へとステップアップすることができませんでした。努力して強くなって、更にその先へ進み、その中でも限られた人しか全国には行けないのだと思います。全国大会という世界の厳しさを今回も強く感じました。

最後に、あるメンバーがこんなことを言っていました。

「アンカーとして、誰にタスキを渡せばいいのかわからずに走ってしまった。アンカーには、次の代へとタスキを渡す、という役目があった」

そういう意味では、僕たちの思いも来年へ引き継いでいって、つながっていくのだと思います。だから、今年の悔しさや思いも込められているタスキと共に、来年こそ全国へ行ってほしいです。

今回の都駅伝は、先生方の支えや保護者、先輩方の応援のおかげで、素晴らしい経験をすることができました。ありがとうございました。

1区 3100m 中村 太紀 (中3)

区間タイム 10'01

区間順位 11位

総合順位11

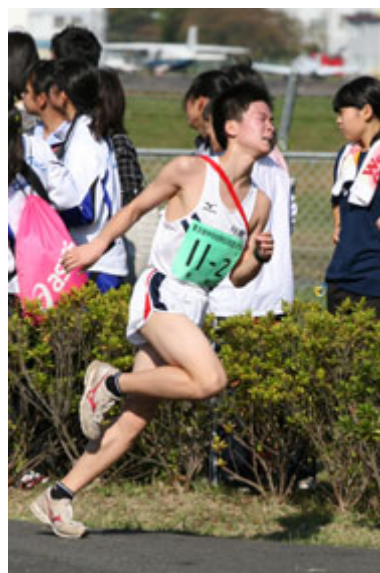


2区 3000m 市川 尚樹 (中2)

区間タイム 10'20
12

区間順位 22位

総合順位



3区 3000m 比良田 芳城 (中3)

区間タイム 10'11
7

区間順位 3位

総合順位



4区 3000m 郡谷 拓実 (中3)

区間タイム 10'38
位8

区間順位 19位

総合順位



5区 3000m 青木 孝輔 (中2)

区間タイム 10'31
8

区間順位 15位

総合順位



6区 3000m 松原 息吹 (中3)

区間タイム 10'37
位11

区間順位 38位

総合順位

